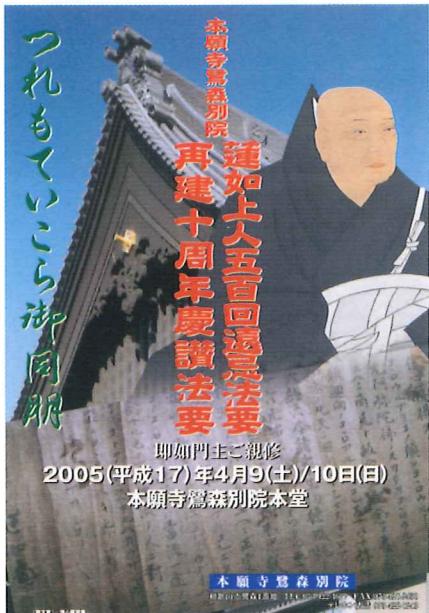


2005(平成17)年1月●第75号

蓮如上人500回遠忌法要  
鷺森別院再建10周年慶讃法要

# 喜びあふれる法要へ



4月9・10日

同別院では、三年前に二法要実行委員会を結成、準備が順調に進められており、記念事業・行事を推進するために教区内の人々の懇念を結集して法要の完遂に向けてスタートを切った。

## 蓮師のご遺徳を偲ぶ

も実施されることになつておらず、募集人数は合わせて八百人となつてゐる。募集は各寺院を通じて行われる。

同法要是、蓮如上人のご遺徳を偲び、また、紀州と蓮如上人についての歴史を踏まえながら、別院再建十周年の意義を踏まえ、教区内の人々に喜んでもらえる法要にしようというもの。

法要初日の九日は、午後の逮夜法要、翌十日は、午前午後の日中・逮夜法要の三座営まれる。三座ともご門主ご親修。三座の法要では教区内から約二千人が参拝を予定。期間中、二回のおかみそり

今回の法要で記念事業の完遂に向けて、一昨年十一月から教区内の各寺院に懇意を依頼、三期にわけて募財を依頼。昨年末現在で五千八百八十一万四千二百六十七円の懇意が寄せられている。

鷺森別院では「教区内全寺院、ご門徒の皆様の温かいご協力をいただき、法要が完遂できるよう、ますますのご懇意をいただきます」と話している。

いよいよ二法要の年が幕開いた。鷺森別院（佐々木孝昭輪番）では、来る四月九、十日の二日間、同別院本堂で大谷光真門主のご親修でにぎにぎしく営まる。同一法要の正式名は「本願寺鷺森別院蓮如上人五百回遠忌法要並びに本願寺鷺森別院再建十周年慶讃法要」で、二日間で三座法要が當まれ、教区内から約二千人が参拝、別院界隈は喜び一色となる。



題字 宮本 龍勝氏

発行	和歌山教区基幹運動推進委員会
編集	教区報編集委員会
	和歌山市鷺森1番地
	鷺森別院内
電話	和歌山(073)422-4677
FAX	和歌山(073)428-2450
発行人	佐々木 孝昭

本堂の修復・改修では、昨年六月から工事が始められ、大屋根の修理、丸瓦らくだこぶ修復、白華除去、本堂前の防水工事をはじめ、外壁亀裂の修復と本堂外装の塗り替え、山門、堀の塗り替えなどの修理が昨年十月末に完了しており、真新しい本堂がお目見えした。

一方、改修工事では、一階ホールの改装をはじめ、トイレの改善、本堂前玄関の段差を改修し、車いすでの参拝やお年寄りも安全に参拝できるバリアフリーも実現した。

今回の法要の記念事業では、大きく二法要の修行、本堂修復・改修となつていて、法要費は四千百万円、工事費は六千百万円など総額一億三千万円。

新しい年の始まりをお念仏とともにお迎えのこととお慶び申し上げます。

本年は和歌山教区の教化センターとも、また紀州門徒の皆様のこころのふるきとともに言えます本願寺鷺森別院において四月九日及び十日に「蓮如上人五百回遠忌法要並びに本願寺鷺森別院再建十周年慶讚法要」がご門主ご親修のもと厳修されます。

同別院は冷水浦の喜六大夫が蓮如上人のご教化を受け、一宇の道場を設けたことに始まり、寺基を変遷の後、現在の地に教線の拠点として、各

## 鷺森テレホン

### 紙上法話

佐々木孝昭

(本願寺鷺森別院輪番・和歌山教区教務所長)

ご寺院、ご門徒の皆様によつてお念仏とともに受け継がれてきました。

このたび、一九九四(平成十六)年に再建された現本堂の十周年を機縁に、別院責任役員・総代会、教区会など教区内各機関のご賛同を頂き、この紀州の地に更なるお念仏の広がりを願い、教区内外より

欲望の増大にのみ生きてきた私たちの社会は一気に心の社会まで崩壊させたのではないでしようか。昨今、命の尊厳を損なう事件・事象が頻発している状況には特に憂慮するものであります。

このような時代であるからこそ私たちは、阿弥陀如来の本願力により信心恵まれ念仏

ないでどうか。

## 大切なご法義 伝えていく使命

の門信徒の皆様がより参拝しやすく、また教区の研修会・

諸行事・儀式会場としてのより一層の活用、現代社会に対応したバリアフリー化など別院施設の改装・改修を行わせていただきました。

現代社会は、第二次世界大戦後、焦土からの復興、高度成長の名のもと経済的発展、また飛躍的な科学技術の発達を遂げきました。しかし、

申す人生の中で歩みを進めていかなければならないのでは有なご縁にぜひともお一人でも多くの方々にご参拝いただき、ともにご勝縁を慶ばせて頂きたくよろしくお願いを申し上げ、ごあいさつとさせて頂きます。

四月のご法要には、この稀有なご縁にぜひともお一人で多くの方々にご参拝いただき、ともにご勝縁を慶ばせて頂きたくよろしくお願いを申し上げ、ごあいさつとさせて頂きます。

## 鷺森テレホン 法話

073-422-0243

おにしさん

24時間いつでもどこからでも3分間法話が聞けます。  
(法話は毎月一日・十五日に変わります)

前号に引き続き岩本孝樹師に教区寺族婦人会連盟基幹運動連続研修会の要点をまとめていただいた。

### 差別の現実をどうみるか？

教団の内外で、部落差別という差別の現実に出会った念佛者たちの間には二つの意見があります。

すなわち「差別は、信仰があればなくなるのだから信仰運動をもと拡げれば差別はなくなる」「念佛の輪を拡げればいい、部落問題に特別のことをしなくてもよい」と言う人びとに對し「そうで

岩本 孝樹

寺族婦人会連続研修会

要旨

はなかつたのか。その事実を見た教団の開催だけで部落差別が解消されるとは思えない」「聴聞に励んでいる人たちや、篤信者と呼ばれる同行や僧侶が、現に今も差別をしている」と反論する念佛者もいました。

また、「そのような議論をやるより荒廃した社会に伝道することが先、真宗の教えの素晴らしさが



岩本 孝樹  
寺族婦人会連続研修会

## 御同朋の社会を目指す歩みこそ

### 祖師の願い

伝われば差別をなくすという目的も実現できる」と言う僧侶に対し、「御同朋・御同行を説き平等を説いても、教団自身がそうしなければならないはずがない」と主張します。

社会状況の変化もその要因の一つです。「部落差別は、実態として強く残っていると主張： 実際に示される差別の具体例は、賤称語を用いた落書きのたぐいで、誰が誰を差別したのかわからないものがほとんど」という主張が公然と行われたり、また被差別者の差別への抗議に対しても「そんなことないで・前より良くなつていいのだから・そんなことばっかり言つてないで・そんなに発言や行為に目くじら立てず許しあう世界が必要」等々と言い、感情的に批判される社会や教団の中にあつては、それらの意見に迎合した同朋運動不必要論や解消のための見直し論が出されることは当然だということもできます。

### 差別・被差別からの解放

さて、やがて教団は親鸞聖人の七百五十回大遠忌法要を迎えます。教団はその過去を振り返ったときに部落差別を除いてその歴史を語れません。教団の現在も部落差別や人権問題を除いて理解することはできません。さらに教団の未来に思いを寄せるとき部落問題や諸差別に触れずに語ることは決してできません。

今こそ、逆流することなく同朋教団の顕現を目指し、それを高く掲げることこそが求められています。それは、ご本願に出遇い、差別している自らに気づかされた今、私たちは差別・被差別からの解放、すなわち御同朋の社会を目指す歩みをすることが、親鸞聖人の願いにかなう道であることを改めて学びたいと思います。

# 第30回 近畿仏婦記念大会



つれもていこら御同朋  
—みひかりに照らされて—

第三十回西本願寺近畿地区仏教婦人会記念大会が、和歌山教区担当で十月十四日「つれもていこら御同朋—みひかりに照らされて—」をテーマに和歌山ビッグホールで開催され、近畿各教区より約四千五百人が集つた。

記念大会は、「輝きあういのちの同朋」と題し中西智海勧学が講演。今大会のために各教区より結集した二百二十人の合唱団による「讃歌と秋のうた」では、参加者全員で大合唱、会場いっぱいに歌声を響かせた。「響け同朋の輪へ！」では、鷺森幼稚園園児百五人による和太鼓。元気いっぱいの子ども達の演技に会場は感動の拍手が湧き上がった。

また、「お念佛をよりどころとする一人として、現実から学び出発する」ことを忘れず、基幹運動の理念を一層熱意をもって、「行動ある聞法者」として実践するという、大会宣言の採択がなされ、三十回記念の喜びをともに味わえた実りある大会となつた。

第三十回西本願寺近畿地区  
仏教婦人会記念大会

# 創立50周年記念大会 —近同推—



親鸞さまと歩む道  
御同朋 生かされ生きて 50年

まず、午前十一時から総御堂でご門主、お裏方がご臨席のもと、総物故者追悼法要を厳修。正信偈をおつとめの後、ご門主が「差別の現実や社会状況、そして宗門の運動とそれに時代とともに変遷を重ねていますけれども、差別がある限り、そして宗祖親鸞聖人の教えに生きる限り、避けて通ることの出来ない大切な課題であり、

ご門主、お裏方がご臨席のもと、総物故者追悼法要を厳修。正信偈をおつとめの後、ご門主が「差別の現実や社会状況、そして宗門の運動とそれ

宣言」を読みあげた。当日、実施した、先の台風二十三号・新潟中越地震の義捐金について、松本正英副会長が報告とお礼を述べた。

その後、会場をホテルグランヴィア京都に移してご門主、お裏方のご臨席のもと祝賀会が催された。



近畿同朋運動推進協議会（刀禰諦存会長、以下「近同推」）の総物故者追悼法要並びに創立50周年記念大会が、十二月三日、大谷光真門主、範子裏方のご臨席、各方面からの関係者、一般参加者七百人あまりが参集のもと、本願寺総御堂と本願寺会館で行われた。

その後、午後一時より記念式典がご門主ご臨席のもと本願寺会館大ホールで開催。刀禰諦存会長は挨拶で「先人のご苦労を受け継ぎ在として、部落問題をはじめとしてあらゆる差別の撤廃、人権確立のためにより強力に取り組んでいきたい」と決意を新たにした。

この後、元勤式指導所所長の福井照真師が「『同和から人権へ』の光と影 基幹運動の理念確立の信念を！」と題して記念講演。その後、シンガーソングライターの海勢頭豊さんのコンサートが開催され、音楽を通して戦争平和・人権問題などについて訴えた。

最後に花岡道子副会長が「大会宣言」を読みあげた。当日、実施した、先の台風二十三号・新潟中越地震の義捐金について、松本正英副会長が報告とお礼を述べた。

近畿同朋運動推進協議会（刀禰諦存会長、以下「近同推」）の総物故者追悼法要並びに創立50周年記念大会が、十二月三日、大谷光真門主、範子裏方のご臨席、各方面からの関係者、一般参加者七百人あまりが参集のもと、本願寺総御堂と本願寺会館で行われた。

その後、午後一時より記念式典がご門主ご臨席のもと本願寺会館大ホールで開催。刀禰諦存会長は挨拶で「先人のご苦労を受け継ぎ在として、部落問題をはじめとしてあらゆる差別の撤廃、人権確立のためにより強力に取り組んでいきたい」と決意を新たにした。

この後、元勤式指導所所長の福井照真師が「『同和から人権へ』の光と影 基幹運動の理念確立の信念を！」と題して記念講演。その後、シンガーソングライターの海勢頭豊さんのコンサートが開催され、音楽を通して戦争平和・人権問題などについて訴えた。

## 仏婦を中心に早期復興を願い 被災地へダーナ献金



集まった多くの救援物資

各組組長・連盟委員長を通じ全カ寺に依頼し、短期間で多くの物資が集まつた。

また、合せて九十七万二千二百一円の「ダーナ献金（物資購入資金）」が寄せられた。

物資は、連盟委員と教務所職員で仕分け作業を行い、

十万円分の野菜・飲料水等を購入し、二トントラックで寺青連盟会員と教務所職員で、新潟教区極楽寺（麻田秀潤住職）に届けられた。ご協力ありがとうございました。

### 社推協第十四回 歳末助け合い募金を実施

第十五回歳末助け合い街頭募金

（浄土真宗本願寺派社会福祉推進協議会和歌山教区支部主催）を去る十二月十三日に実施した。教区基幹運動推進委員会を中心として、各教化団体から五十六名が参加。集まつた十四万九千六六十円は、毎日新聞大阪社会事業団の「歳末助け合い運動」と新潟県中越地震被災地あてに寄託した。

### 二月十九日（土） 日校修了者別院参拝を開催

来る二月十九日（土）午後一時

より鷺森別院において、日校修了式典では一人ひとりに修了証が手渡される。

また、茶話会では、日校での思い出やこれから抱負を話合いながら、思い出の品として今後も仏珠を自主制作する。

詳細並びにお申込はお手次のお寺まで。

## 子どもの報恩講

本堂に楽しい声響きわたる



去る十二月十一日に、第十六回子どもの集い「子どもの報恩講」が本願寺鷺森別院において開催された。教区内各地から、五十五人の仏の子どもが参加して、第八回彰式、ビデオの鑑賞。また和歌山

子ども書道展、第五回絵画展の表彰式、ビデオの鑑賞。また和歌山

### 鷺森別院

【常例法座】 每月十五・十六日 午後一時半より

二月 简井香春師（山陰教区）

三月 箱田義信師（備後教区）

【春彼岸会】

三月二十日～二十二日

高澤正文師（奈良教区）

日高別院

【戦没者追悼法要】

二月二十日 午後一時半より

講師 未定

【春季彼岸会】

二月二十日 午後一時半より

寺西實城日高別院輪番

【得度】

西岡沙弥香春千祐博子和歌山東組海草組有田南組和歌山組和歌山組海南組

蓮光寺安養寺寺本勝寺寺真法寺遍

寺寺寺寺寺寺

正念寺寺教尊寺

泰覺寺日善妙寺

和歌山北組海南組

和歌山北組平成16年11月9日御坊組

和歌山北組平成16年11月11日

### 別院だより

得度

教師

逝去